

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200055		
法人名	医療法人栄仁会		
事業所名	栄仁会グループホームやまぶきの郷 (Bユニット)		
所在地	宇治市菟道段の上20番1		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2691200055&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の自治会・消防団に加入。納涼祭・花笠巡航・文化祭・消防訓練・消防団員として実際に消化活動にも出動し、より積極的な活動が行えている。秋には第2回やまぶき祭りも実施。初参加して下さる方々も増え確実に地域に根付いたやまぶきの郷の存在を感じてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に、理念を掲示し、出勤時に目を通し、理念を心に刻み込んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度から地域の自治会、消防団に加入。地域の催し(納涼祭、花笠巡航、文化祭、消防訓練、消防団員として消火活動に出動)にも積極的に参加。第2回やまぶき祭りも地域住民も参加され、盛況に開催できた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に小規模多機能を中心として相談はあるが、グループホームに直接の依頼はない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議録をユニット内に掲示し、面会時家族にも閲覧してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員派遣事業を受けており、終わりに総括をし、内容を職員に伝達している。介護相談員報告書を皆で振り返りをし、ケアに活かす努力をしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の学習会を開き、周知徹底を行っている。人権尊重や虐待についての話し合いや研修を行い、福祉倫理を念頭においている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを定め、職員が閲覧できるようにしている。年間研修項目に、虐待を挙げ、虐待の学びを深めている。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在Bユニットには2名の後見制度利用者がおられる。ケアの提供を後見人に相談しながら、スタッフはケアの提供を行っている。勉強会にて後見制度について理解しつつある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、契約後も必要に応じて契約時の内容を繰り返し、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名のアンケートを家族様に配布し、その内容をスタッフ会議で話し合い、家族に書面で報告し改善に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議は、朝の申し送り後に行っている。職員と管理者もその都度意見交換しあっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者・施設長も面接を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立案し、毎月研修を行っている。法人内研修、外部研修の情報提供を細かく行い、積極的に受講し、伝達研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部事業所全体の教育委員会が組織されている。新任研修では他部門との交流がはかれ、情報交換が出来た。スタッフが他のグループホームヘッドクセラピーに赴き交流を図った。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者が積極的に関わって、ニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細なことでも家族に報告し、情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在入居の申し込みをされている方が15名おられる。運営規定にて地域の方の優先をうたっているためエリア外の方は他の施設を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に昼食や夕食のメニューを考えて頂いたり、一緒に花の水遣りや洗濯物たたみ、テーブル拭きなどを無理の無い程度にやっています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初めての家族会を開き、親睦を深める機会を得た。次回の家族会では、もう一段踏み込んだ意見があるよう努めたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	以前暮らしていた地域の老人会に引き続き参加されておられる。また、長年お付き合いをされている方々の訪問もあり家人を交えて継続できるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係が築けるよう席の配置や、外出時の仲の良い利用者同士で行えるよう配慮している。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、次の生活を一番に考えるようにして、退所後も、それぞれの機関への問い合わせや、時には面会を行っている。病院入院という退所が多く、死亡に至ったケースが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が一人ひとりの意向に意識を向けスタッフ同士、情報を共有したり話し合ったりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しい情報が入るとシートに追加し、ケアにつながるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	不穏時には居室にて二人きりでお話をし、利用者様の「心」と「身体」のメッセージを受け取り、少しでも不安や不満等が取れ、穏やかに過ごして頂けるよう努めている。また、ケアプランを中心に個別ケアを行いチームで日々の状態を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族にケアの情報や提案を持ちかけることにより、更に工夫した意見が聞けるようになった。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A-3シート活用し、身体状況の把握がしやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模や隣のユニットに遊びに行くことができる。そこでレクリエーションに参加したりお茶を楽しんでいる。柔軟な支援を常に考え、取り組むようにしている		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在生花やお茶、音楽のボランティアに来て頂いている。女性の利用者が多く、特に生花やお茶には積極的に参加される方が多い		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、月1回の往診をしてもらい、時にはご家族に同席して頂いている。必要に応じて、電話での相談、受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、気軽に相談できる体制を整えている。ナースオンコール体制を整えている。年間研修項目に、医療的内容を挙げ、研修を行っている。ターミナルの研修を毎月実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族、主治医を初めとして、関係機関に連絡を取り、早期退院つなげている。日頃からの職員の観察力を養うことが課題である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方については、入居時や必要時に頻回に意向を確認している。施設全体の看護師のシフトも組んでいる。家族様には看取りの同意書を頂いている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームでの全体会議の中で、講師を職員で順番に決め、実践力を身に付けられるように努力している。マニュアル完備し、急変や事故発生時の備えに対して、スキルUPに努力していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1回以上避難訓練を実施している。消防団に加入し、出動1回、訓練にも参加している。小規模スタッフ、グループホームスタッフも共に、人数の把握が出来る様、確認表に記入している。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や倫理についての勉強会を実施し常にスタッフは利用者様を敬うという気持ちを忘れずに接していくように心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中での気付きをスタッフと共有しなき声をその方の日常生活から捉えるように努力している。また、一人一人に寄り添って個別ケアの中からその方の希望や思いに気付き、ご本人様の気持ちを大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や昼寝の有無、日中の過ごし方等、個別に対応している。言葉で伝えることが出来ない方には、身体状態を見ながら、その人らしい暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択はなるべくご利用者にして頂いている。化粧をする習慣があった方には、慣れた化粧品を持参して頂き化粧をしてもらっている。時々職員もお手伝いをさせて頂き、今の時代の化粧も楽しんで頂いている。又馴染み思い出のある装飾品を身につけて頂くことで気分の高揚を図る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせて楽しい献立を工夫している。利用者と職員でテーブル拭きや食器の片付けをしている。食事作りは主に職員が行っているが簡単な作業(筋取りや皮むき、味見等)をして頂き食事作りに関わって頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一人一人、生活の中から足りない時に補給しながら1日の水分量を確保。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはもちろんの事、スタッフが一人一人の口腔内が清潔に保っているか義歯の状態を観察している。必要があれば、家人を相談し訪問歯科を利用して頂いている		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えのない方も、センター方式シートの活用にて、排泄パターンを把握、トイレ誘導している。これにより、入所後、常時オムツ着用から布パンツに変わった方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ、食物で腸内を整えるように努めている。お味噌汁には多くの野菜を入れ、ヨーグルト、牛乳、又オリゴ糖で工夫している。また、トイレ誘導の時間をセンター方式シートから割り出し、一人一人の排泄時間を考慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴に関しては、曜日を決めているが、本人の状態に合わせて、臨機応変に入っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活、睡眠時間、睡眠環境に注意を払い、一人一人に合った安眠、休息につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のミス減らす為に徹底して声に出して呼称をしたり薬に関する説明を往診時に医師よりして頂きスタッフで薬の情報と服薬後の状況を伝達している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小規模でのレクリエーションにも積極的に参加され、日々の生活の活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自治会の催しには積極的に参加している。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは本人と家族の許可の下で外出時の楽しみとして持っておられるか、預らせて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じて事務所の電話を使用している。また、現在二名の利用者様が居室に電話を設置されている。手紙に関しては家族が代筆されている。今までの関わりを全員で大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭が見えることで季節を感じていただいている。特に紅葉の季節が気に入られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の椅子以外に、ソファや玄関のベンチを設け、時には独りで外気浴や日光浴を出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を出来る限り居室に置き、居心地の良い空間作りを行っている。ベッドを予め用意しているが、本人の状態・習慣に合わせて床にカーペットを引いて布団を引くなどの工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに手すり又家人の工夫で居室はご本人が移動しやすく建具を置かれている。		